

モデル事業名	地域資源再活用型地域連携事業
活動団体名	玖珠町商工会
ホームページ	http://www.kusu-shokokai.jp/
所属/担当者名	事務局長 日隈一秀
連絡先	0973-72-1211 E-mail:k-higuma@oita-shokokai.or.jp
活動地域	大分県玖珠郡玖珠町森地区

● 活動地域の概要

人口：1,807名、高齢化率：34.7%

47自治区のうち3自治区（集落）では無人となる可能性がある。

対象地域は江戸時代より続く城下町で近年まで玖珠町の政治・経済の中心部でした。昭和7年国鉄久大線開通後より急激に衰退が始まり、国道210号線、高速道の開通後は更に衰退した。現在は玖珠町により街並み整備事業を実施して、活力を生み出す諸施策を実施中であります。地区内は外環をバイパスが通り、交通の利便性は良い。また歴史と文化が色濃く残り、周辺には自然が豊かに残されている。農業を中心とした産業構造であり、静かな佇まいのある町である。



【位置図】



【森地区の町並み】



【これまでのボランティア活動は高齢者が中心】

● 活動地域の課題

テーマ「日本一小さな城下町づくり」を推進する中、地域のネットワークと新たな地域コミュニティの構築が大切である。本事業を通じて住民参加型の意識改革を行い、日常活動に根ざした地域環境整備と、人と人の情報交換の場づくりを実施する。昨年度の調査及び住民ヒアリングの結果に基づき地域づくり活動に対する具体的方向を見出し、実践する。共通の活動を行う場として仮称「もりもりの日」を制定し、住民の環境や歴史・文化・伝統の継承等の実施を行い、地域の発展と今後の進むべき方向についての機会とする。

地域が高齢化し、歴史や伝統文化が衰退する中、地域住民によるボランティア活動を活性化する為に既存の組織に縛られずに活動する新たなコミュニティの構築を行う。その為にも、子供たちを活用した学習や親子の繋がりを利用したボランティア対策を実施し、地域の高齢者を利用した地域づくりを行う。急速に進む、城下町の無人家及び廃屋は後継者が帰郷する意思がなく、解体へと連なり、更なる過疎に連なる。周辺観光地の客数が大幅に増加する中、当地では数十年来変化がない。交流人口を増加させる事は将来必ず、土地家屋所有者である人々に対する大きなインパクトとなり地域活性化へと繋がる。少子高齢化は過疎の典型的課題である。貴重な自然と環境・歴史遺産を活用し、森地区を活かした新たな産業の創造と創意工夫による地域構築を行うことが緊急に必要である。地域の老若男女が一体となる住民ネットワークの構築を行い、安全安心が生まれる地域とする。その主体づくりを行い地域再構築の必要がある。

● 活動の内容

・平成20年度

- ①各団体への事業説明及び事業参加の呼びかけ。
- ②若手の検討会の開催。地域の各団体の若手が定期的に集まり現在の状況や課題、今後の活動や地域の活性化の対策等を検討する。
- ③大分大学及び自治会の連携によるアンケート調査等の実施。（地域資源調査・住民意識調査・城下町基盤調査）
- ④アンケート調査報告会の開催。
- ⑤調査に基づいた研修会・講習会等の開催。
- ⑥ウォーキング・サイクリングコースの立案、提案。
- ⑦シンポジウム及び成果報告会の開催。
- ⑧HP上で本事業をPRする。

・平成21年度

活動①：地域資源の活用と整備

活動の中心である「童話の里くす」のイメージを実現し、既存の資源を積極的に活用するために、地域住民による歴史遺産や自然環境を自らの手で整備を行うための新たな住民ネットワークを構築する。地域内の情報共有と地域外に対する情報伝達手段として情報パンフレット作成やインターネットホームページを活用し、利用しやすい環境を作る。これまでの中心城下町部分と周辺住宅(武家屋敷)の包括活用、又、地域内の自然や歴史との調和づくりによる動線づくり計画の策定。

活動②：町並み清掃事業

本活動のネットワークづくりの中心事業で、住民意識の啓発により地域連帯を構築し、これまで各団体がそれぞれ実施していた各種ボランティア活動を一本化して、地域内の統一した一斉作業を行う。城下町内のごみ拾い、水路の掃除、路地の片付け等身近な作業で助け合いを行う。周辺観光地の国道沿いや県・町道及び里道、山道の除草作業や補修作業による快適な環境づくりを行う。その為の多くのボランティアの助力をお願いして環境づくりをする。継続的な方法により地域環境づくりのシステムを住民サイドで構築する。

活動③：森町PR事業

静かな佇まいの城下町、空き店舗や周辺施設を活用した賑わいを創出し街内での文化行事や催し物を開催し、来街者の増加を図る。その為に活動の中心である「童話の里くす」のイメージを実現する。既存の資源を積極的に活用した町づくりを資源とイメージ(心)として一体化した事業展開を実施する。その為には地域資源の情報提供を地区内はもちろん町内～町外へと発展させる必要がある。

平成20年度の調査、検討段階では地域内の諸問題が明らかとなった。歴史遺産や伝統文化を大切にする為の条件整備する事により、来街者を迎える整備作りが必要であり、人づくりと組織づくりが急務である来年度は地域コミュニティ元年と位置づけを行い、ネットワークを構築する。

地域内の情報共有と地域外に対する情報伝達手段としてパンフレット作成やインターネットホームページの充実、更に携帯電話利用者に対するホームページ作成により情報発信を行う。特に福岡都市圏住民に対し積極的な働きかけを行い交流機会を設ける。例えばモニターツアーを開催して福岡より1時間の利便性、癒しの地域のアピールを行う。

● 活動の成果

・平成20年度

行政・大分大学・各地域住民・各団体を交えた事業説明会を開催した。森地区である52自治区を対象にした住民意識調査としてのアンケートを実施。地域資源や城下町基盤の調査として、各団体とのヒアリングを実施。また若手を中心とした課題対応の集いを定期的に行い、地域に根ざした課題について意見を集約した。

講演会や諸会議等を通じ、参加者の年齢が65歳以上の高齢者の方々が中心となりました。当初計画では地域の青年や女性の参加を期待し、講演会の開催等については夜間開催を実施いたしましたが、残念ながら講演会やシンポジウムについては5%未満でした。森地区の実情から考えると当然と思われるが、アンケートの内容から検討すると、伝統的地域の社会構造は年功序列型であるため若者や女性の意見に対する反応が悪い。その為に各種会議等の出席が少ない原因である。今後地域の女性会議や青年会議等の新たなネットワークを作る必要を感じた。

今回の事業については広報活動を通じ各自治区に対し回覧文書や行政回覧文書を利用し本事業の周知を行う。又、町内に広く広報を行うことにより、マスコミ及びプレス関係を利用し本事業の周知を図る。その影響により、各地区で観光面での新たな計画が持ち上がり、今後地域連携のあり方についての方向が検討されている。その為に玖珠町商工観光課では総合計画の策定を検討中であり、今後玖珠町全体の観光振興に対するインパクトを与え、それぞれの地域での動きが芽生えることを期待できる。



シンポジウムの模様



防災講演会の模様



事業報告会の模様

・平成21年度

・地域資源の活用と整備

1. 清水瀑園の清掃及び道路補修と安全祈願祭の実施
平成21年7月11日(土) 8:30~13:00 参加者42名
2. 清水御門付近の水路清掃作業と草刈の実施
平成21年7月12日(日) 6:00~12:30 参加者20名
3. 県指定名勝 旧久留島氏庭園附清水御門前の剪定及び清掃作業
平成21年11月21日(土) 22日(日) 23日(月・祝日) 8:30~17:00
参加人数:地元住民約150名(23日のボランティア参加者)

・森地区観光PR活動について

1. 森町竹灯り事業
平成21年12月31日 22:00~1日13:00
2. 森町PRネット事業(継続中)



森地区協議会の模様



県指定名勝 旧久留島氏庭園附



森町竹灯り事業の模様

● 今後の課題及び展望

・課題

1. 伝統行事の継続に対する高齢化は人員不足による縮小化
2. 新たな催しものに対する協力体制の不備
3. 個々のこだわりによる全体意識の欠如

・展望

1. 各種団体(20団体)の目的に対する統一的組織づくりを醸成し、それぞれの活動をお互いにサポートする。
2. 地域協働による環境整備に関する地域清掃作業を毎年2回実施し、地域資源の啓蒙啓発や愛護をPRする。
3. 地域発の情報発信によるPRを行い、静かな落ち着いた観光地づくりを行う。